

再びヤマセミから得た *Pseudocathaemasioides cerylis*

Saito and Fukumoto, 1972について

福本幸夫

広島市安佐動物公園, 広島大学医学部寄生虫学教室

(昭和53年10月25日 受領)

緒言

Saito and Fukumoto (1972) は広島市安佐町産の魚食鳥であるヤマセミ *Ceryle lugubris lugubris* (Temminck) の気嚢と気管から1吸虫を得て, これを新属新種と判断し, *Pseudocathaemasioides cerylis* と命名したり。その後, 同報告者の1人福本は広島市瀬野川町産および広島市沼田町産のヤマセミ2羽の気嚢から再び本虫体を検出したので, ヤマセミ寄生の第2, 第3例として報告するとともに, 今回の検出例においては虫体の大きさ, 子宮の発育状況, 子宮内卵数について上記原記載に比し著しい個体差を認めたのであわせて報告する。

材料および方法

第2例目のヤマセミは1976年6月5日に広島市瀬野川町において衰弱しているところを保護され, 6月8日に死亡したもので, 死亡数時間後に剖検し, 胸部気嚢および腹部気嚢より56虫体を検出した。死因は肺炎であった。

第3例目のヤマセミは1976年6月22日に広島市沼田町において右翼中手骨骨折のため保護され, 完全治癒不能として6月23日に安楽死処分したもので, 死亡後ただちに剖検して胸部気嚢より13虫体を検出したが腹部気嚢には虫体を認めなかった。

検出した虫体は両端に厚さ約0.8mmの濾紙をはさんだ2枚のスライドグラスで圧平し70%エタノールにて1昼夜固定, さらにスライドグラスをはずして数日間固定した。固定後型通り alum-carmine 染色, 脱水, パルサム封入をおこない観察に供した。また圧平しない3虫

体(第2例2隻, 第3例1隻)の子宮内卵を各々100個無作為にとり出し, 接眼測微計で測定した。

観察結果

広島市安佐動物公園においてこれまでに剖検した広島市産ヤマセミ3例(原記載を含む)のすべてより本虫体を検出した。

寄生部位および寄生数は, 第2例では胸部気嚢および腹部気嚢に合計56隻, 第3例では胸部気嚢に13隻であった。検出時の虫体は前端がしだいに細くなった葉状で淡桃色を呈し肝蛭様であった。生理食塩水中に入れた虫体はゆるやかな波動運動や伸縮運動をおこなっていた。

第3例の虫体13隻はすべて子宮の発育が良好で, その部位は長さ6.0~10.0, 幅2.5~4.0mmにわたり暗色硬固な結節状を呈して, 明らかに周囲より隆起していた。第2例の虫体では子宮の発育は第3例に比べて不良で, 56隻中7隻が3.5~6.0×2.0~3.0mmの隆起を認めたものの, 残り49隻は外見的には子宮の隆起を認めなかった。

圧平した虫体は前端がしだいに細くなった葉状で, 後端は急に細くなり, 全体として長卵形ないし紡錘形を呈している。虫体の大きさは第2例では体長18.5~38.5×体幅8.2~16.0mm, 第3例では36.0~38.0×13.5~14.5mmであった。また第2例のうち外見的に子宮の隆起が認められるものの大きさは体長32.0~33.0×体幅13.5~16.0mm, 認められないものでは18.5~38.5×8.2~15.0mmで大きさかなりの差がみられた。

虫体の口吸盤後端から子宮中位付近までの体表には微小な皮棘を認め, 口吸盤後端から腹吸盤前縁付近までの

皮棘は外見的に明瞭であるが、腹吸盤より後方ではしだいに小さく不明瞭になつている。食道は短く太い。腸管は長く虫体後端近くまで達しており、その前部は単純な管状であるが、後部はやや複雑で、単純あるいは枝分れた分枝が外方へ向つて多数派生している。大まかな樹枝状に分枝した2個の精巢は縦に並び虫体後部の大半を占めている。陰茎囊は中央あるいはやや前方がくびれた類円筒形ないしひょうたん型で、腹吸盤より前位において、捻転した貯精囊、前立腺、露出した陰茎へと続いている。生殖口は腹吸盤前方の中央部に開口している。卵巢は精巢の前方に位置し不規則な分葉状である。

子宮は卵巢と腹吸盤の間に捻転しており、すべての虫体が子宮内卵を蔵していたが、第2例では子宮が細くて子宮内卵を少数しか含まないものから、中程度に太くて卵も多数含むものまで種々の段階のものが観察された。第3例ではすべての虫体の子宮が著しく太く、内部は卵で充満して虫体の前方 $\frac{1}{8}$ から $\frac{1}{2}$ の大部分を占め、とくに子宮がよく発育したものでは、その中に含まれている多数の卵によつて腸管や卵巢が覆い隠されていた。

子宮内卵1隻当り100個の観察によると、形は長円形ないし卵形で小蓋を有し淡黄褐色、大きさは第2例の2隻では長径102~151 μ ×短径61~97 μ 、第3例の1隻では110~137×59~91 μ で卵内容は卵細胞と卵黄細胞よりなつている。

考 察

今回ヤマセミ2羽の気囊から検出した虫体は肝蛭様で体長18.5~38.5mm、体幅8.2~16.0mmと大形であること、腸管の後方は外側に向つて分枝が派生していること、精巢は樹枝状で2個が縦に並び虫体後部の大部分を占めていることなどの点から Saito and Fukumoto (1972) が記載した *Pseudocathaemasioides cerylis* と同定したが、個体によつては原記載と発育程度の著しく異なる子宮を有することを認めた。すなわち第2例においては原記載と同程度のもの7隻、原記載より未発育なもの49隻であり、第3例においては13隻すべてが原記載に比べて著しく子宮の発育が良好で太く、極めて多数の子宮内卵を蔵し、圧平標本では子宮内卵によつて腸管や卵巢が覆い隠されているものも認められた。

圧平標本における体長、体幅の測定値は、原記載では

29.2~33.5×12.8~14.5mm、第2例のうち子宮の発育が不良な49隻では18.5~38.5×8.2~15.0mm、子宮の発育が原記載と同程度の7隻では32.0~33.0×13.5~16.0mm、子宮の発育が著しく良好であつた第3例では36.0~38.0×13.5~14.5mmであつて、体長29.0mm、体幅12.5mm以下の小形の虫体はすべて子宮の発育が不良であつた。

第2例、第3例とも全虫体が子宮内卵を蔵しており、その長、短径は原記載が104~130×66~82 μ 、第2例が102~151×61~97 μ 、第3例が110~137×59~91 μ とほぼ同じ値であつた。

以上の結果より本種は個体により子宮の大きさや子宮内卵数に著しい差異が認められており、とくに小形の虫体では子宮の発育も不良であつたことから、原記載の虫体は発育途上のものであると判断される。また、これまで広島市安佐動物公園で剖検したヤマセミ3例(原記載を含む)のすべてから本種を検出したことになり広島市周辺ヤマセミには本種が比較的普通に寄生しているように思われた。

要 約

広島市内で得た2羽のヤマセミの気囊より *Pseudocathaemasioides cerylis* Saito and Fukumoto, 1972 を合計69隻検出し、形態的に詳細に観察した。

その結果、すべての虫体は子宮内卵を蔵していたが、それぞれの虫体の子宮の発育状態や子宮内卵数に著しい差異を認め、Saito and Fukumoto (1972) が記載した虫体は発育途上のもつと判断された。そこで完全成熟虫体についての記載を試み、同時に本種が広島市周辺ヤマセミに普通に寄生していることを明らかにした。

稿を終るに当り終始御指導いただいた広島大学辻守康教授ならびに御助言下さった山形大学斉藤奨助教授に深謝いたします。

文 献

- 1) Saito, S. and Fukumoto, Y. (1972) : A new trematode *Pseudocathaemasioides cerylis*, n. g., n. sp. from a Japanese pied kingfisher, *Ceryle lugubris lugubris* (Temminck) (Digenea, Cathaemasiidae). Jap. J. Parasit., 21, 60-62.

Abstract

THE SECOND AND THIRD CASES OF *PSEUDOCATHAEMASIOIDES*
CERYLIS SAITO AND FUKUMOTO, 1972 OBTAINED FROM
CERYLE LUGUBRIS LUGUBRIS (TEMMINCK)

YUKIO FUKUMOTO

(*Asa Zoological Park, Hiroshima city, Japan.*
Department of Parasitology, School of Medicine, Hiroshima
University, Hiroshima, Japan)

Sixty-nine worms of large trematodes *Pseudocathaemasioides cerylis* Saito and Fukumoto, 1972 were found in the air sac of two Japanese pied kingfishers, *Ceryle lugubris lugubris* (Temminck) which were caught at Senogawa-town and Numata-town, Hiroshima city on 1976.

All worms have eggs in their uteri and have remarkable differences with the development of uteri and the number of eggs in each uterus among them.

From the facts above mentioned, it can be concluded that the specimens described in Saito and Fukumoto's report are not fully developed ones.

The morphological description about fully developed worms, *Pseudocathaemasioides cerylis* were informed.

It was found that Japanese pied kingfisher, *Ceryle lugubris lugubris* which lived in the region of Hiroshima city were commonly infected with *Pseudocathaemasioides cerylis*.

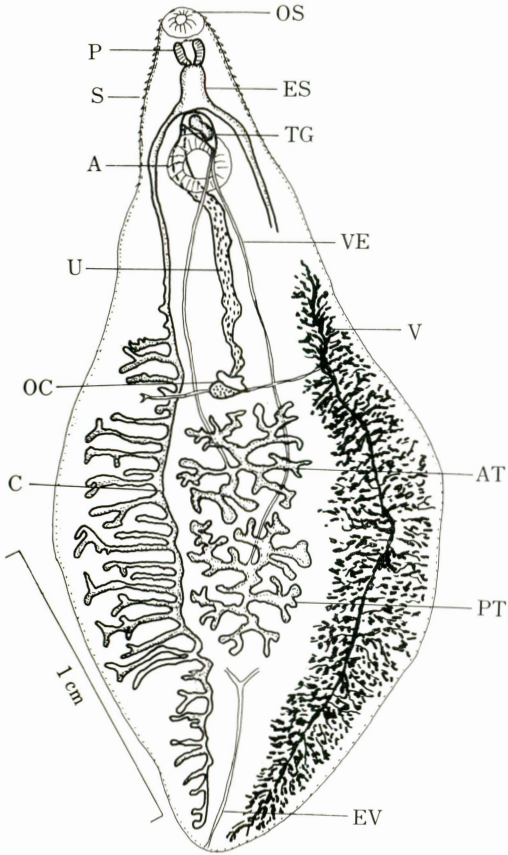


Fig. 1

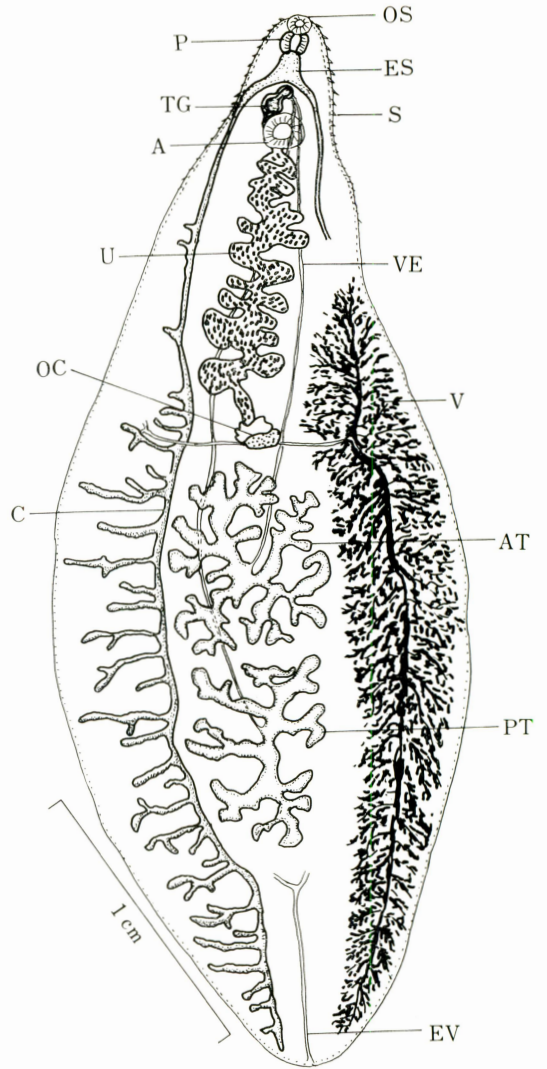


Fig. 2

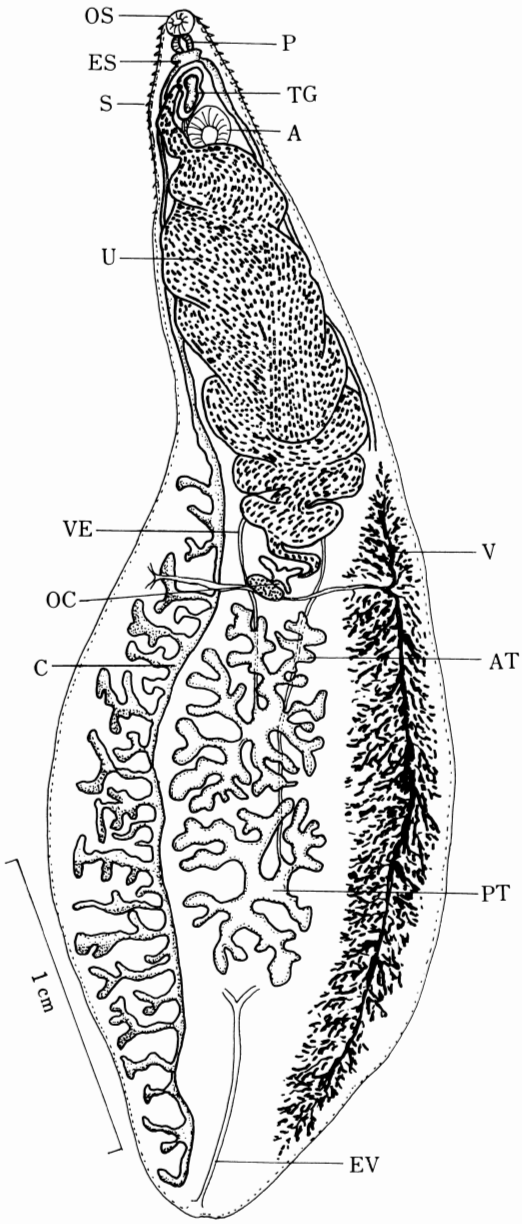


Fig. 3

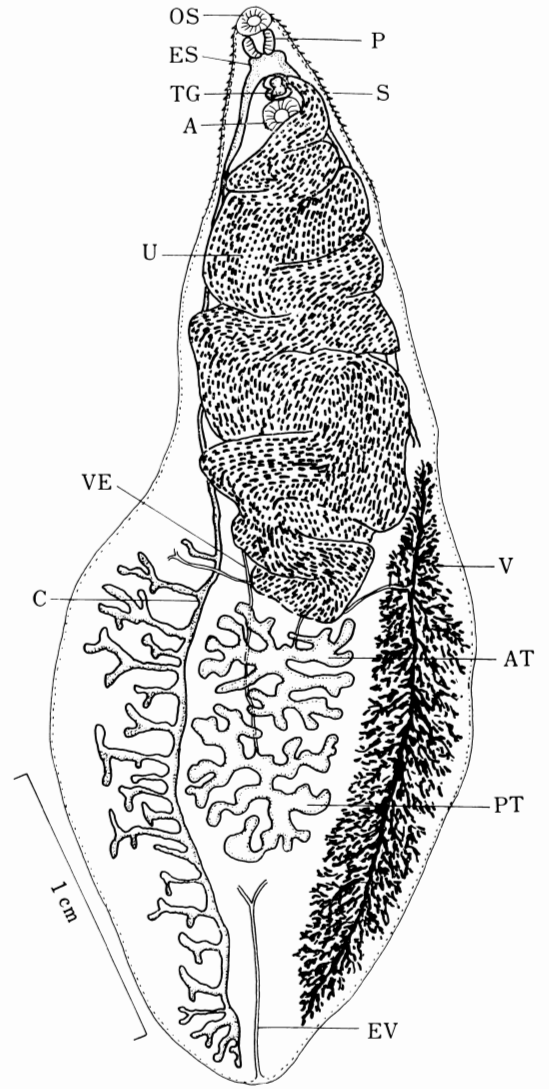


Fig. 4



Photo. 1



Photo. 2

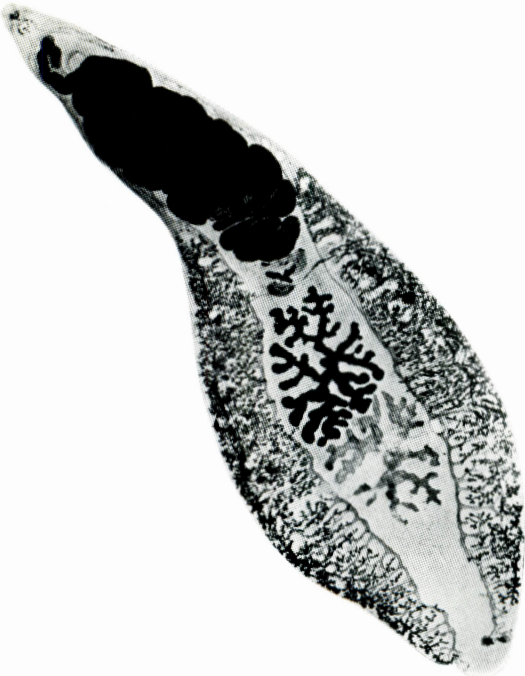


Photo. 4

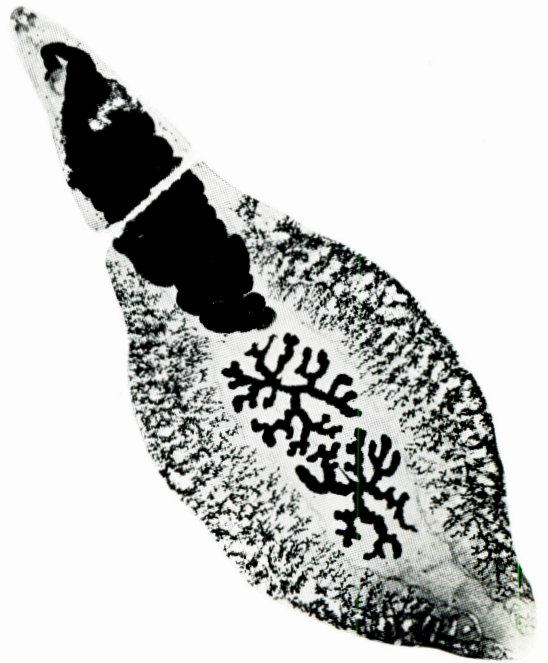


Photo. 3

Explanation of Figures

- Fig. 1 Holotype of *Pseudocathaemasioides cerylis* which have under-developing uterus, dorsal view.
Fig. 2 Holotype of *Pseudocathaemasioides cerylis* which have medium-developed uterus, dorsal view.
Fig. 3 Holotype of *Pseudocathaemasioides cerylis* which have well-developed uterus, dorsal view.
Fig. 4 Holotype of *Pseudocathaemasioides cerylis* which have well-developed uterus. Ovarian complex is covered under the uterus, dorsal view.

A : Acetabulum, AT : Anterior testis, C : Cecum, ES : Esophagus, EV : Excretory vesicle, OC : Ovarian complex, OS : Oral sucker, P : harynx, PT : Posterior testis, S : Spine, TG : Terminal genitalia, U : Uterus, V : Vitellaria, VE : Vas efferens,

Photo. 1 Photograph of Fig. 1.

Photo. 2 Photograph of Fig. 2.

Photo. 3 Photograph of Fig. 3.

Photo. 4 Photograph of Fig. 4.